

くまもと夢への架け橋ネットワーク構想

目的

- ・「教科・科目充実型」の遠隔授業、学校間連携の運営体制、地域との協働を通じて
- 「多様な学びの中で、地方の資源を発掘し、活かし、伸ばす人材の育成」や、
- 「地域の人材育成の拠点、心の拠り所として、なくてはならない高等学校」を実現する。

現状

- 熊本市内への人口一極集中
(県民の約40%が熊本市民)
→地域の活力低下
→若年層人材の流出

- 地方で学ぶ強みを理解しながら新たな資源を発掘し、生かしたり、新たな魅力や価値を創造できる人材育成が求められている。

1. 遠隔事業に関する取組の概要

- ・第一高校(第一高校教師、指導教諭(スーパーティーチャー))や、県立教育センター(近隣の県立高校に配置されている指導教諭(スーパーティーチャー))を主たる配信拠点とした遠隔授業の実施を行う
...習熟度授業、発展的科目、専門教科科目、実技系科目の試み等
- ・県内(熊本、阿蘇、天草、人吉球磨)を一体化した地域課題解決のための探究活動(くまモン(熊本の人)プロジェクト)の実施。KSH(熊本スーパーハイスクール)とのリンクによる、探究活動の充実。
- ・構成校を一体とした、きめ細やかな進路指導の実現



2. 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

- ・コンソーシアムと学校運営協議会を一体化した、地域の拠点としての高等学校づくり。
- ・熊本地震、令和2年7月豪雨等の経験を生かした「有事の際でも子どもたちの学びを止めない」取組(遠隔授業や地域のコンソーシアムを防災的視点からも捉える取組、連絡協議会やコンソーシアムに防災関連組織を加える試み)
→新たなモデルとして全国に発信する



3. ネットワークを構成する学校

熊本県立第一高等学校、熊本県立小国高等学校、熊本県立牛深高等学校、熊本県立球磨中央高等学校、熊本県立教育センター

くまもと夢への架け橋ネットワーク構想



育成を目指す資質・能力

- ・地域課題等の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、学びの意義や価値を理解するようにする。
- ・地域社会や地域の生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- ・地域課題解決に向けた取組に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

主なアウトプット(活動目標)

- ・令和5年度までに16科目で遠隔授業を実施する
- ・4つの自治体とコンソーシアムを組織し、地域との協働を推進する。
- ・各コンソーシアムでは、年間5回の委員会を開催し、高等学校を知の拠点として、地域課題の解決に向けた取組を推進する。
- ・C I Oによる遠隔授業の研修をすべての県立高等学校が受講し、県内全域に遠隔授業の普及を図る。

主なアウトカム(成果目標)

- ・ネットワーク構成校の生徒の学力向上を図る。
- ・地域課題の解決に資する探究的な科目を構成校で導入し、地域の中核を担う人材を育成する（学校設定科目も創設、発信する）。
- ・構成校をモデルとして、令和5年度までに20の県立高校においてコンソーシアムを創設し、地域との協働体制の強化を図る。

委託期間終了後の見通し

- ・構成校を核として、遠隔授業を全県的に拡充する。その際は大規模校から配信するだけでなく、様々な高校の強みを活かして配信、受信する「相互送受信」のシステムを構築する。